

第3 - (1) - 1図 産業別就業者構成割合 (男女計)

(単位 %))

産 業	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年
農林漁業	48.5	41.1	32.7	24.7	19.3	13.8	10.9	9.3	7.1	6.0	5.0	4.8
鉱業、建設業	5.9	5.9	7.3	7.1	7.9	9.1	9.8	9.2	9.6	10.4	10.1	8.8
製造業	15.8	17.5	21.7	24.4	26.1	24.9	23.7	23.9	23.7	21.1	19.4	17.3
電気・ガス・熱供給・水道業	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5
運輸・通信業	4.4	4.6	5.0	6.0	6.2	6.3	6.3	6.0	6.0	6.1	6.2	-
情報通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6
運輸業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1
金融・保険業、不動産業	1.0	1.6	1.8	2.4	2.7	3.3	3.6	3.8	4.3	4.2	4.0	3.9
卸売・小売業, 飲食店	11.1	13.9	15.8	17.8	19.3	21.4	22.8	22.9	22.4	22.8	22.7	-
卸売・小売業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.9
飲食店, 宿泊業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2
サービス業	9.2	11.4	12.0	13.9	14.6	16.5	18.5	20.5	22.5	24.8	27.4	-
医療, 福祉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.7
教育, 学習支援業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4
その他のサービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.4
その他	3.4	3.5	3.1	3.1	3.4	4.0	3.7	3.8	3.9	4.0	4.6	5.3

本文図表基礎資料

第3 - (1) - 2図 主要産業別入職の動向

(単位 %)

項目	入職率	入職率		
		新規学卒	一般未就業	転職入職
製造業				
1960年代	23.2	6.5	4.7	12.1
70年代	15.3	3.2	3.3	8.8
80年代	13.3	3.1	3.0	7.1
90年代	11.2	2.4	2.3	6.5
2000年代	10.6	1.8	2.0	6.9
卸売・小売業				
1960年代	27.2	9.6	5.5	12.2
70年代	20.7	5.2	4.7	10.8
80年代	17.6	4.7	4.9	8.1
90年代	16.1	3.3	4.8	7.9
2000年代	17.8	2.9	5.4	9.5
サービス業				
1960年代	21.2	5.9	5.5	9.7
70年代	19.2	4.0	4.5	10.7
80年代	17.6	3.9	4.2	9.5
90年代	18.0	3.3	4.2	10.5
2000年代	18.7	2.7	4.5	12.4

第3 - (1) - 3図 主要産業別離職の動向

(単位 %))

項目	離職率	離職理由			
		自己都合	経営上の都合	契約期間の満了	定年
製造業					
1960年代	21.7	19.1	1.1	1.2	0.3
70年代	16.4	13.3	1.5	1.3	0.4
80年代	12.9	10.1	1.1	1.1	0.6
90年代	12.4	9.2	1.2	1.0	1.0
2000年代	12.4	7.9	1.9	1.3	1.3
卸売・小売業					
1960年代	24.3	23.0	0.9	0.2	0.1
70年代	20.1	18.7	0.8	0.4	0.2
80年代	17.1	15.4	0.9	0.5	0.3
90年代	16.1	14.2	0.8	0.7	0.4
2000年代	18.6	16.0	1.1	1.0	0.5
サービス業					
1960年代	18.3	17.1	0.6	0.4	0.2
70年代	17.7	15.4	0.9	1.0	0.4
80年代	15.7	12.8	1.1	1.3	0.6
90年代	16.7	13.2	1.2	1.7	0.6
2000年代	19.7	15.1	1.4	2.6	0.7

第3 - (1) - 4図 職業別就業者構成割合 (男女計)

(単位 %)

職業	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年
専門的・技術的職業従事者	4.3	4.8	5.0	5.5	6.6	7.6	8.7	10.6	11.6	12.5	13.5	13.8
管理的職業従事者	1.8	2.1	2.2	2.9	3.9	4.3	4.7	4.0	4.1	4.1	2.9	2.4
事務従事者	8.0	8.2	10.2	13.1	14.0	16.7	16.4	17.7	18.7	18.9	19.2	19.3
販売従事者	8.4	10.6	10.8	11.7	12.0	13.3	14.6	14.5	14.7	15.2	15.1	14.5
サービス職業従事者	3.3	5.0	5.2	5.8	6.1	6.5	6.9	7.1	7.2	7.8	8.8	10.0
保安職業従事者	0.9	1.1	1.1	1.2	1.2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.5	1.6	1.7
農林漁業作業従事者	48.0	40.6	32.5	24.5	19.2	13.8	10.8	9.2	7.0	5.9	5.0	4.8
運輸・通信従事者	2.1	2.7	3.4	4.3	4.5	4.5	4.3	4.0	3.8	3.7	3.6	3.4
生産工程・労務作業従事者	23.2	24.8	29.5	30.9	32.4	31.8	32.1	31.3	31.1	29.8	29.3	28.3
分類不能の職業	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.5	0.6	1.2	1.8

第3 - (1) - 5図 主要産業別にみた就業者増加率の職業別寄与度

製造業

(単位 %)

年	計	専門的・ 技術的職 業従事者	管理的職 業従事者	事務 従事者	販売 従事者	サービス 職業従事 者	保安職業 従事者	農林漁業 作業員	運輸・通 信従事者	生産工程 ・労務作 業者	分類不能
1970→75	-2.8	-0.5	0.1	1.2	1.1	-0.1	-0.0	-0.0	-0.1	-4.5	0.0
75→80	-0.9	0.3	0.6	-1.1	-0.2	-0.3	-0.1	-0.0	-0.2	0.2	0.0
80→85	6.1	2.9	-1.0	1.2	0.7	-0.2	-0.1	-0.0	-0.2	2.8	-0.0
85→90	4.8	0.2	-0.1	1.8	1.0	0.0	-0.1	-0.0	-0.1	1.9	0.0
90→95	-7.8	0.2	-0.2	-0.8	-0.4	-0.0	-0.0	0.0	-0.2	-6.4	0.0
95→2000	-8.8	-0.1	-1.5	-1.2	0.1	-0.0	-0.0	-0.0	-0.1	-5.9	0.0
00→05	-12.7	-1.3	-0.9	-1.7	-0.6	0.0	-0.0	0.0	-0.2	-8.1	0.0

卸売・小売業

(単位 %)

年	計	専門的・ 技術的職 業従事者	管理的職 業従事者	事務 従事者	販売 従事者	サービス 職業従事 者	保安職業 従事者	農林漁業 作業員	運輸・通 信従事者	生産工程 ・労務作 業者	分類不能
1970→75	11.6	0.1	0.2	3.9	5.2	0.3	0.0	0.0	-0.2	2.0	0.0
75→80	10.6	0.1	1.2	1.6	6.2	0.2	-0.0	-0.0	-0.2	1.5	0.0
80→85	4.3	0.5	-0.8	3.6	-1.7	0.4	-0.0	0.0	-0.3	2.6	-0.0
85→90	3.9	0.1	0.0	2.5	-0.5	0.4	-0.0	-0.0	-0.1	1.6	0.0
90→95	7.7	0.3	0.7	1.7	2.5	0.4	-0.0	0.0	-0.1	2.2	-0.0
95→2000	-4.1	0.1	-2.2	-1.3	-0.6	0.3	-0.0	-0.0	-0.2	-0.3	0.0
00→05	-5.8	0.1	-0.8	-2.2	-3.1	0.1	-0.0	0.1	-0.2	0.1	0.0

サービス業

(単位 %)

年	計	専門的・ 技術的職 業従事者	管理的職 業従事者	事務 従事者	販売 従事者	サービス 職業従事 者	保安職業 従事者	農林漁業 作業員	運輸・通 信従事者	生産工程 ・労務作 業者	分類不能
1970→75	13.0	4.9	0.5	3.9	0.4	2.7	0.2	0.0	0.8	-0.4	0.0
75→80	14.9	5.6	0.5	2.0	1.4	1.6	0.2	0.1	0.6	2.8	0.0
80→85	11.7	5.4	-0.2	2.9	1.2	1.5	0.2	0.0	0.1	0.7	-0.0
85→90	11.3	3.8	0.5	2.9	0.7	1.4	0.2	0.0	0.2	1.6	0.0
90→95	11.3	3.2	0.3	1.7	1.1	2.7	0.3	-0.0	0.8	1.2	0.0
95→2000	6.3	1.9	-0.7	1.6	0.5	2.1	0.3	0.0	-0.3	0.9	0.0
00→05	7.4	1.8	-0.3	1.2	0.3	2.0	0.2	0.0	-0.5	2.9	0.1

第3 - (1) - 6図 雇用形態別雇用者数の推移 (正規の職員・従業員と正規以外の職員・従業員)

(単位 万人)

年	役員を除く雇用者	正規の職員・従業員	正規以外の職員・従業員
1985	3,998	3,343	655
1990	4,369	3,488	881
1995	4,780	3,779	1,001
2000	4,903	3,630	1,273
2005	5,007	3,374	1,633
2006	5,088	3,411	1,677
2007	5,173	3,441	1,732

年	役員を除く雇用者	正規の職員・従業員	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託・その他
2007	5,173	3,441	1,164	133	435

第3 - (1) - 7図 主な産業別にみた正規以外の職員・従業員の割合の推移
(単位 %)

年	産業計	建設業	製造業	卸売・小売業	サービス業
1982	-	22.3	15.0	20.1	17.3
83	-	-	-	-	-
84	-	-	-	-	-
85	16.4	-	-	-	-
86	16.6	-	-	-	-
87	17.6	20.4	17.5	25.5	21.0
88	18.3	-	-	-	-
89	19.1	-	-	-	-
90	20.2	-	-	-	-
91	19.8	-	-	-	-
92	20.5	17.6	17.7	28.4	24.6
93	20.8	-	-	-	-
94	20.3	-	-	-	-
95	20.9	-	-	-	-
96	21.5	-	-	-	-
97	23.2	16.2	18.5	33.3	28.9
98	23.6	-	-	-	-
99	24.9	-	-	-	-
2000	25.9	-	-	-	-
01	27.2	-	-	-	-
02	28.7	20.2	23.6	44.2	35.6
03	30.3	18.0	20.8	42.0	35.0
04	31.5	17.7	21.5	44.3	36.3
05	32.3	18.9	22.0	44.1	37.1
06	33.2	19.7	20.6	45.4	39.0
07	33.7	18.8	22.9	45.3	39.4

第3 - (1) - 8図 雇用形態別にみた雇用の変化幅 (主要産業)

(単位 万人)

産業・雇用形態		1982→87年	87→92年	92→97年	97→2002年	2002→07年
製造業	民間の役員を除く雇用者	68	96	-62	-162	-30
	正規の職員・従業員	28	77	-62	-186	-44
	パート・アルバイト	46	16	4	-17	-2
	派遣・契約社員・嘱託等	-6	4	-4	41	16
卸売・小売業	民間の役員を除く雇用者	79	106	56	-3	2
	正規の職員・従業員	23	54	-18	-88	-38
	パート・アルバイト	57	51	72	54	29
	派遣・契約社員・嘱託等	-1	1	2	31	11
サービス業	民間の役員を除く雇用者	170	248	205	171	289
	正規の職員・従業員	86	134	86	-33	64
	パート・アルバイト	72	95	97	119	83
	派遣・契約社員・嘱託等	12	19	22	85	142

第3 - (1) - 9図 正規雇用割合の変化の要因分解 (産業構造要因と産業内要因の別)

(単位 %)

項目	1982→87年	87→92年	92→97年	97→2002年	2002→07年
正規雇用割合の変化差	-2.87	-1.96	-2.95	-7.38	-4.12
産業構造要因	-0.05	-0.22	-0.27	-0.61	-0.53
産業内要因	-2.82	-1.73	-2.68	-6.77	-3.59

第3 - (1) - 10図 女性割合の変化の要因分解（産業構造要因、職業構造要因、就業形態構造要因の別）

(単位 %)

項目	1950→55年	55→60年	60→65年	65→70年	70→75年	75→80年	80→85年	85→90年	90→95年	95→2000年	2000→05年
女性割合の変化差	0.5	0.0	-0.1	0.1	-2.1	0.8	0.9	0.8	0.3	0.9	1.1
産業構造要因	-1.0	-1.7	-1.0	-0.9	-0.8	-0.2	0.4	0.0	0.1	0.4	0.8
職業構造要因	-0.9	-1.8	-1.4	-1.1	-0.4	-0.2	0.7	0.2	0.2	0.8	0.6
就業形態構造要因	-	-	-	-	-	-	-	1.1	0.1	1.7	2.1

第3 - (1) - 11図 雇用者数、労働組合員数及び労働組合の推定組織率の推移

年	雇用者数 (万人)	労働組合員数 (人)	推定組織率 (%)	年	雇用者数 (万人)	労働組合員数 (人)	推定組織率 (%)
1947	1,256	5,692,179	45.3	78	3,796	12,382,879	32.6
48	1,259	6,677,427	53.0	79	3,899	12,308,756	31.6
49	1,193	6,655,483	55.8	80	4,012	12,369,262	30.8
50	1,251	5,773,908	46.2	81	4,055	12,471,270	30.8
51	1,336	5,686,774	42.6	82	4,102	12,525,529	30.5
52	1,421	5,719,560	40.3	83	4,209	12,519,530	29.7
53	1,631	5,927,079	36.3	84	4,282	12,463,755	29.1
54	1,712	6,075,746	35.5	85	4,301	12,417,527	28.9
55	1,764	6,285,878	35.6	86	4,383	12,342,853	28.2
56	1,931	6,463,118	33.5	87	4,448	12,271,909	27.6
57	2,014	6,762,601	33.6	88	4,565	12,227,223	26.8
58	2,134	6,984,032	32.7	89	4,721	12,227,073	25.9
59	2,248	7,211,401	32.1	90	4,875	12,264,509	25.2
60	2,382	7,661,568	32.2	91	5,062	12,396,592	24.5
61	2,422	8,359,876	34.5	92	5,139	12,540,691	24.4
62	2,582	8,971,156	34.7	93	5,233	12,663,484	24.2
63	2,693	9,357,179	34.7	94	5,279	12,698,847	24.1
64	2,803	9,799,653	35.0	95	5,309	12,613,582	23.8
65	2,914	10,146,872	34.8	96	5,367	12,451,149	23.2
66	3,042	10,403,742	34.2	97	5,435	12,284,721	22.6
67	3,100	10,566,436	34.1	98	5,391	12,092,879	22.4
68	3,159	10,862,864	34.4	99	5,321	11,824,593	22.2
69	3,196	11,248,601	35.2	2000	5,379	11,538,557	21.5
70	3,277	11,604,770	35.4	01	5,413	11,212,108	20.7
71	3,383	11,797,570	34.9	02	5,348	10,800,608	20.2
72	3,469	11,888,592	34.3	03	5,373	10,531,329	19.6
73	3,659	12,097,848	33.1	04	5,371	10,309,413	19.2
74	3,676	12,461,799	33.9	05	5,416	10,138,150	18.7
75	3,662	12,590,400	34.4	06	5,517	10,040,580	18.2
76	3,710	12,508,731	33.7	07	5,565	10,079,614	18.1
77	3,746	12,437,012	33.2				

第3 - (1) - 12図 労働組合の推定組織率の変化差にみられる産業構造要因と産業内組織率要因(要因分解)

(単位 %)

項目	1950年代	60年代	70年代	80年代	90年代	2000年代
産業構造要因	-0.24	-0.10	-0.15	-0.11	-0.08	-0.01
産業内組織率要因	-0.57	0.28	-0.30	-0.43	-0.30	-0.45
労働組合推定組織率の変化差	-0.82	0.19	-0.45	-0.55	-0.38	-0.47

第3 - (2) - 1図 日本型雇用慣行と企業の人事方針

(単位 %ポイント)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
長期雇用の重視	97.7	93.0	86.7
正規雇用の活用重視	81.8	65.9	49.5
新卒採用の重視	41.4	36.8	-13.8
年功的賃金制度を重視	2.6	-23.2	-8.1
昇進制度の年功的運用を重視	-32.9	-41.6	-40.0

第3 - (2) - 2図 人材の確保・育成方針

(単位 %ポイント)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
正社員の確保・育成方針			
新規学卒者を定期採用・育成し長期雇用する	43.5	60.0	25.3
専門的知識やノウハウをもった正社員を中途採用する	17.5	11.0	29.1
正社員の通年採用を活用する	-15.0	-11.0	-8.1
正社員以外の者の確保・育成方針			
高齢者の雇用延長に活用する	21.0	16.0	13.4
単純な仕事で活用する	26.5	20.0	3.8
専門的な仕事で活用する	-6.5	14.0	22.1
増やし正社員を抑制する	-6.0	8.0	-2.7

第3 - (2) - 3図 正社員以外の者を活用する理由

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
賃金の節約のため	51.4	56.9	47.5
一日、週の中の仕事の繁忙に対応するため	20.8	33.6	27.8
景気変動に応じて雇用量を調節するため	37.9	25.9	20.9
即戦力・能力のある人材を確保するため	23.4	22.8	29.9
専門的業務に対応するため	21.7	16.2	30.2
賃金以外の労務コストの削減のため	25.4	23.6	19.9
正社員を確保できないから	19.4	20.6	18.3
長い営業時間・操業時間に対応するため	3.7	28.6	16.5
臨時・季節的業務量の変化に対応するため	25.6	15.2	14.0
正社員を重要業務に特化させるため	13.0	15.0	15.4
高齢者の再雇用対策のため	23.5	10.0	14.2

第3 - (2) - 4図 正社員以外の者が増加した要因

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
労務コストの削減のため	81.1	89.5	90.2
新規学卒者を正社員として採用するよりも即戦力の人材を確保したいから	44.6	23.7	49.2
業務の分担を見直し、正社員の負荷を減らす必要があったため	31.1	52.6	37.7
将来の見通しが立たず正社員を採用できないため	39.2	15.8	31.1
情報機器やソフトウェアの活用により、単純な作業を標準化することが可能となったから	13.5	28.9	16.4
労働者が柔軟な就業形態を求めるようになったから	14.9	18.4	21.3
業務のマニュアル化が進んだから	13.5	28.9	9.8
新規学卒者を正社員として採用し、育成していくためのコストをかけられないから	14.9	15.8	9.9

第3 - (2) - 5図 過去3年間に実施された賃金制度の見直し

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
企業業績と賞与との連動強化	27.0	28.2	21.1
業績・成果給の導入	17.1	21.4	19.0
定期昇給の縮小、廃止	15.3	14.9	22.8
年齢給の縮小、廃止	13.5	15.3	13.9
個人業績と連動する部分の拡大	11.4	14.5	13.1
職務給（役割給、職責給等を含む）の導入	7.5	13.7	13.1
一時金・報奨金制度の導入、拡大	8.6	11.1	9.7
昇給幅の拡大	13.0	10.3	8.9
職能給の拡大	9.4	10.7	9.3
部門別業績賞与の導入	3.9	8.0	7.6
家族手当等の基本給組み入れによる廃止	4.9	9.2	6.3

第3 - (2) - 6図 賃金決定に重視する要素

①一般社員

(単位 %)

項目	今までウエイトが高かったもの			今後重視するもの		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
年齢給の要素	53.8	45.8	46.8	12.2	8.8	8.9
勤続給の要素	48.1	37.4	44.3	9.9	5.3	10.1
職能給の要素	48.3	39.7	35.4	54.8	50.8	57.0
個人業績・成果給的要素	30.6	36.3	27.8	59.7	56.5	59.1
職務給的要素	20.3	28.6	29.1	31.9	40.5	34.2
会社・部門業績・成果給的要素	15.3	21.0	16.0	34.5	35.5	32.5

②管理職

(単位 %)

項目	今までウエイトが高かったもの			今後重視するもの		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
年齢給的要素	37.1	37.8	35.4	6.5	4.6	5.9
勤続給的要素	32.7	30.2	35.9	4.2	3.1	3.4
職能給的要素	43.4	35.1	33.8	48.1	44.3	54.0
個人業績・成果給的要素	34.5	33.2	30.4	60.3	46.9	56.1
職務給的要素	31.7	35.9	35.0	37.4	45.8	41.8
会社・部門業績・成果給的要素	30.4	37.4	26.6	56.1	57.6	46.0

第3 - (2) - 7図 賃金を決めるときに重視すべき要素

(単位 %)

項目	縮小するのが望ましい			拡大するのが望ましい		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
職能給的要素	2.0	2.0	1.7	69.4	66.9	68.2
業績・成果給的要素	3.8	5.0	5.0	59.0	56.3	58.3
職務給的要素	3.3	2.6	3.5	56.2	55.8	57.0
勤続給的要素	25.5	23.7	23.4	26.5	28.7	28.3
年齢給的要素	27.6	26.6	25.9	20.5	21.7	21.5

第3 - (2) - 8図 賃金制度見直しの契機

(単位 %))

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
社員の満足度を高めるために、社員一人一人に応じた賃金決定が必要なため	56.4	53.8	53.8
経営状態に照らし総額人件費を抑制する必要があったため	21.8	35.2	30.1
中途採用者の増加、活用のため適切な賃金制度を整える必要があったため	17.7	12.6	17.9
社員の年齢構成から特定世代の賃金コストを抑制する必要があったため	11.1	14.3	12.8

第3 - (2) - 9図 標準労働者（同一企業への継続勤務者）の賃金カーブ（主要産業別、男性）

(20～24歳 = 100. 0)

産業	年齢階級	1990年	2000年	2007年
製造業	15～19歳	82.6	86.6	84.6
	20～24歳	100.0	100.0	100.0
	25～29歳	122.8	121.0	117.1
	30～34歳	151.5	151.0	139.9
	35～39歳	179.9	179.6	170.7
	40～44歳	215.1	208.3	203.1
	45～49歳	253.9	225.2	231.8
	50～54歳	288.9	253.7	229.9
	55～59歳	274.6	256.6	241.2
卸売・小売業, 飲食店	60～64歳			172.6
	15～19歳	81.2	79.5	79.2
	20～24歳	100.0	100.0	100.0
	25～29歳	126.7	120.6	122.7
	30～34歳	156.2	153.3	144.6
	35～39歳	195.4	183.4	176.5
	40～44歳	237.7	210.6	206.0
	45～49歳	273.8	240.6	224.2
	50～54歳	303.9	278.3	238.5
55～59歳	301.0	273.1	240.3	
サービス業	60～64歳			155.7
	15～19歳	82.6	79.0	81.4
	20～24歳	100.0	100.0	100.0
	25～29歳	122.7	118.6	122.4
	30～34歳	153.6	151.5	150.2
	35～39歳	188.8	183.8	187.4
	40～44歳	221.5	213.1	224.5
	45～49歳	266.4	245.4	241.4
	50～54歳	296.2	264.9	258.3
55～59歳	277.9	279.7	256.1	
60～64歳			209.4	

第3 - (2) - 10図 標準労働者（同一企業への継続勤務者）の賃金格差（学歴別、男性）
（十分位分散係数）

項目	高校卒						大学卒					
	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
製造業												
1990～1994年平均	0.19	0.21	0.21	0.22	0.27	0.31	0.13	0.19	0.24	0.27	0.26	0.27
1995～1999年平均	0.18	0.20	0.21	0.22	0.25	0.29	0.14	0.19	0.23	0.31	0.29	0.30
2000～2007年平均	0.19	0.22	0.23	0.25	0.26	0.27	0.15	0.21	0.25	0.31	0.33	0.35
卸売・小売業、飲食店												
1990～1994年平均	0.20	0.24	0.23	0.22	0.27	0.27	0.17	0.23	0.26	0.28	0.29	0.26
1995～1999年平均	0.23	0.24	0.22	0.29	0.27	0.30	0.17	0.23	0.24	0.29	0.34	0.31
2000～2007年平均	0.22	0.23	0.27	0.26	0.26	0.30	0.20	0.24	0.29	0.33	0.33	0.37
サービス業												
1990～1994年平均	0.19	0.24	0.25	0.25	0.27	0.28	0.17	0.23	0.26	0.29	0.26	0.23
1995～1999年平均	0.19	0.21	0.23	0.25	0.31	0.30	0.18	0.23	0.27	0.31	0.27	0.29
2000～2007年平均	0.23	0.26	0.27	0.30	0.28	0.32	0.23	0.27	0.27	0.33	0.35	0.31

第3 - (2) - 11図 継続勤務者と転職経験者の賃金格差（産業計、男性）
（標準労働者 = 100.0）

年齢階級	1990年	2000年	2007年
20～24歳	99.6	97.8	94.8
25～29歳	97.2	97.0	94.1
30～34歳	92.3	89.9	91.7
35～39歳	86.7	87.0	84.5
40～44歳	80.4	81.3	82.7
45～49歳	72.1	77.1	78.1
50～54歳	64.8	71.8	77.0
55～59歳	62.4	67.9	71.6

第3 - (2) - 12図 社員評価で実施している施策の内容
（単位 %）

項目	製造業	卸売・小売業、 飲食店	サービス業
目標管理制度	59.0	66.8	54.0
評価結果の対象者へのフィードバック	42.9	45.8	40.5
プロセス評価	36.1	39.7	32.5
絶対評価	31.9	32.8	28.7
評価者のための研修の実施、拡充	24.9	24.8	24.9
多面的評価	18.7	17.2	21.9
評価結果の分布規制	13.2	6.1	8.9
評価に対する苦情処理制度	4.7	6.1	7.6

第3 - (2) - 13図 社員評価制度の運用上の課題
（単位 %）

項目	製造業	卸売・小売業、 飲食店	サービス業
評価者によって社員の評価にばらつきが生じること	76.1	75.6	63.3
部門間の業績の差を社員個人の評価にまで反映させること	52.7	46.9	50.2
評価が難しい部門があること	42.3	51.9	49.8
仕事の進め方などプロセスが評価されないこと	13.2	17.9	17.7
評価制度や手続きが複雑なこと	9.4	16.8	14.3
特に課題はない	4.2	3.4	5.1

第3 - (2) - 14図 賃金評価に関する満足度と改善度

(単位 %ポイント)

項目	満足度D.I.			改善度D.I.		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
評価基準が明確であること	-20.5	-22.3	-26.7	-4.5	-3.6	-7.5
努力が報われること	-17.2	-17.7	-20.3	-6.4	-8.9	-8.3
評価が納得できること	-14.1	-13.1	-20.6	-6.0	-6.1	-9.4

第3 - (2) - 15図 仕事の満足感に関する労使の認識ギャップ

(単位 %ポイント)

産業	満足感低下の労働者D.I.	満足感低下を認めない企業D.I.
金融・保険業、不動産業	1.6	19.0
建設業	4.6	38.6
製造業	7.6	22.3
サービス業	9.3	26.6
産業平均	9.5	21.0
運輸業	11.5	18.8
卸売・小売業、飲食店	12.5	8.0
情報通信業	19.4	6.9

第3 - (2) - 16図 満足感低下の理由に関する労使の認識ギャップ

(単位 %)

項目	満足感低下について企業があげた理由			満足感低下について労働者があげた理由		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
賃金への不満	44.4	32.3	45.2	42.0	44.1	41.9
能力開発機会の不足	9.3	9.4	11.3	30.0	31.0	36.2
個性が発揮できない	11.1	13.5	21.0	31.4	27.5	26.4
休暇の取りにくさ	24.1	38.5	30.6	23.9	30.1	24.0
社会に役立つと思えない	12.0	15.6	12.9	21.4	20.4	20.7
雇用の不安定化	0.9	3.1	6.5	17.9	18.8	16.3
長時間労働	54.6	66.7	46.8	16.1	22.3	15.7

第3 - (2) - 17図 年齢階級別労働時間の推移

(単位 時間)

年齢階級	男性								女性	
	産業計		製造業		卸売・小売業		サービス業		産業計	
	2002年	2007年	2002年	2007年	2002年	2007年	2002年	2007年	2002年	2007年
18~19歳	186	184	186	183	193	181	184	188	179	178
20~24歳	186	188	188	192	185	186	184	185	173	176
25~29歳	186	189	188	192	183	186	185	188	172	175
30~34歳	184	190	186	192	180	185	186	190	170	173
35~39歳	181	187	182	189	177	181	184	189	169	171
40~44歳	178	184	180	185	176	178	180	187	170	172
45~49歳	176	181	178	182	175	176	180	186	171	172
50~54歳	177	180	176	180	172	177	181	183	171	171
55~59歳	176	180	176	179	172	176	180	185	171	172
60~64歳	175	178	179	179	177	177	174	181	170	170

第3 - (2) - 18図 労働者が働く上で重視していることから

(単位 %)

項目	会社の入社時に重視したことから			現在重視していることから		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
雇用が安定していること	45.9	43.7	45.6	40.0	39.3	37.0
自分のやりたい仕事ができること	34.4	40.9	43.4	33.6	37.5	39.1
会社の将来性	34.1	33.6	24.5	36.9	35.4	29.2
会社の規模や知名度	27.1	29.4	22.2	9.4	10.7	9.2
転職がないこと	27.2	24.8	23.3	19.1	17.5	17.8
人間関係が良いこと	21.7	22.2	21.4	41.2	39.8	37.6
能力・適性に見合った仕事であること	20.2	22.6	25.3	27.2	29.7	28.0
労働時間や通勤時間が短いこと	26.9	15.2	18.8	19.8	14.4	16.2
自分の能力を高めることができること	18.3	21.7	24.0	32.0	30.6	30.6
専門知識や特技を活かせること	17.1	16.6	26.3	16.0	14.2	22.6
賃金が高いこと	17.0	12.9	14.2	22.1	20.7	20.4
福利厚生が充実していること	16.7	14.7	13.7	16.7	14.9	14.3
社会に役立つ仕事ができること	11.2	13.1	19.6	15.6	17.2	22.0
経営理念・企業のビジョン・社風	12.1	19.6	12.4	18.3	24.0	19.3
自分のキャリア形成に役立つこと	6.5	9.9	10.7	12.4	14.8	14.4

第3 - (2) - 19図 仕事の意欲の向上にとって有益だと思うことと現実とのギャップ

(単位 %)

項目	意欲の向上にとって有益だと思うこと			今の職場で実現できていること		
	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
賃金を引き上げること	67.8	67.2	65.1	5.1	5.0	4.8
仕事上、上司からフォローが得られること	48.0	46.3	48.8	18.0	17.1	16.2
有給休暇の取得を促進すること	45.8	53.0	43.7	16.1	9.2	15.7
個人の希望を重視して配置すること	43.6	39.6	43.2	10.2	11.2	14.9
仕事の成果をより重視して処遇すること	42.8	40.5	42.6	9.8	11.0	10.1
作業環境を改善すること	43.8	40.5	42.1	16.9	8.2	9.8
計画的な能力開発を実施すること	37.7	36.3	38.0	9.5	6.9	8.3
福利厚生を充実すること	35.4	38.6	37.1	12.0	11.3	12.5
残業時間を削減すること	33.1	38.1	31.1	13.6	16.1	13.1
非正社員から正社員に登用すること	34.3	31.4	32.7	25.2	25.0	22.7

第3 - (2) - 20図 就業形態別にみた職業生活の満足度

(単位 %ポイント)

項目	正社員	非正社員
職場生活全体	27.0	23.3
仕事のやりがい	49.2	49.1
職場の人間関係	39.3	43.1
雇用の安定	38.1	21.4
職場環境	32.0	28.6
労働時間・休日	26.7	34.6
福利厚生	18.5	0.4
人事評価・処遇	12.5	11.2
教育訓練	8.5	-2.9
賃金	7.9	4.1

第3 - (2) - 21図 基幹的非正社員の動向

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
基幹的非正社員が多数いる事業所	9.0	20.3	18.8
基幹的非正社員が一部いる事業所	51.5	45.1	45.2
基幹的非正社員が増加している事業所	23.0	36.8	25.8

第3 - (2) - 22図 基幹的非正社員の賃金に関する意識

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
正社員に比べ賃金が低いと考える者の割合	71.7	60.6	53.7
賃金に納得できないと考えている者の割合	39.4	40.8	32.2

第3 - (2) - 23図 働きがいをもとめるための企業の取り組み

(単位 %)

項目	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
昇進や配置に関すること			
年齢、勤続に縛られない管理職登用	52.5	61.8	48.9
非正社員の正社員への登用	43.6	46.9	41.4
女性の管理職登用	13.0	26.0	26.6
外部人材の管理職への登用	16.9	10.3	16.9
自己申告・社内公募など社員の意向に配慮した配置	11.2	15.3	15.2
同期入社社員の昇進・昇格に差をつける時期を早める	14.3	12.6	11.0
外部人材の経営幹部層への登用	9.9	10.3	9.7
権限委譲	9.1	7.6	13.9
人材育成に関すること			
資格取得の支援（手当の支給、昇進・昇格の配慮等）	46.2	38.9	48.5
計画的なOJT	52.2	40.5	40.9
社員の全体の能力向上を目的とした教育訓練の実施	40.3	44.3	52.7
選抜された一部の社員を対象にした教育訓練の実施	41.6	40.8	30.8
自己啓発支援制度	39.7	27.1	35.9
外部教育訓練に関する情報提供	30.4	18.3	27.4
長時間労働の是正に関すること			
仕事の役割・分担の見直し	41.8	56.9	52.3
上司や周辺の社員による注意、助言	41.3	46.9	41.4
社員の意識改革	37.1	48.5	35.4
ノー残業デーの実施	29.4	21.8	22.4
業務の機械化、IT化	29.9	23.7	21.1
非正社員（派遣、請負など）を増やす	28.8	20.6	21.5
健康管理、相談サービスの実施	26.0	13.0	18.6
年次有給取得促進	22.3	17.6	18.6
正社員を増やす	20.3	13.7	17.3

第3 - (3) - 1図 産業動向が労働生産性に及ぼしてきた影響

(単位 %))

項目	1950年代	60年代	70年代	80年代	90年代	2000年代
高生産性分野の労働生産性上昇率	4.7	5.0	1.6	3.5	1.8	3.6
低生産性分野の労働生産性上昇率	7.1	10.3	5.7	3.2	0.7	0.6
労働生産性上昇率 (産業平均)	6.7	8.2	4.0	3.4	1.0	1.7
各産業の生産性向上努力の要因	4.4	5.4	2.9	2.8	0.9	2.1
産業別人員構成の要因	2.3	2.8	1.1	0.6	0.1	-0.4

第3 - (3) - 2図 就業者数と労働生産性の推移

(単位 十万円、万人)

年	製造業		卸売・小売業		サービス業	
	労働生産性	就業者数	労働生産性	就業者数	労働生産性	就業者数
1955	10.4	668.3	4.3	529.1	24.5	412.2
1960	13.3	913.3	6.7	663.9	31.0	471.7
1970	34.0	1316.0	22.7	927.5	42.8	751.7
1980	54.9	1280.1	39.9	1108.4	45.6	1026.0
1990	75.1	1406.6	59.1	1172.9	50.2	1459.0
2000	89.2	1249.1	61.9	1141.1	54.5	1883.5
2006	118.6	1115.0	65.0	1072.5	55.1	2200.6

第3 - (3) - 3図 実質国内総生産と労働投入量 (主要産業)

(単位 %)

項目	総生産(実質)の増加率	労働投入量の増加率	就業者の増加率	労働時間の増加率	
製造業	1950年代	11.7	7.3	6.4	0.9
	60年代	13.9	2.7	3.7	-1
	70年代	4.6	-0.8	-0.3	-0.5
	80年代	4.2	0.8	0.9	-0.1
	90年代	0.5	-1.8	-1.2	-0.6
	2000年代	2.9	-1.6	-1.9	0.3
卸売・小売業	1950年代	14.6	5.4	4.6	0.8
	60年代	16.8	2.7	3.4	-0.7
	70年代	7.7	1	1.8	-0.8
	80年代	4.6	-0.1	0.6	-0.7
	90年代	0.2	-1.4	-0.3	-1.1
	2000年代	-0.2	-1.4	-1	-0.4
サービス業	1950年代	7.7	-	-	-
	60年代	8.2	-	-	-
	70年代	3.8	2.6	3.2	-0.6
	80年代	4.6	3.4	3.6	-0.2
	90年代	3.4	1.5	2.6	-1.1
	2000年代	2.8	2.3	2.6	-0.3

第3 - (3) - 4図 労働生産性と時間当たり賃金の上昇率（主要産業）
（単位：%）

項目		労働生産性上昇率	時間当たり賃金 上昇率（実質）	賃金の上昇分	労働時間の削減分
製造業	1950年代	4.4	3.6	4.5	-0.9
	60年代	11.2	7.3	6.3	1
	70年代	5.4	4.2	3.7	0.5
	80年代	3.4	2	1.9	0.1
	90年代	2.3	1.4	0.8	0.6
	2000年代	4.5	0.5	0.8	-0.3
卸売・小売業	1950年代	9.2	2.3	3.1	-0.8
	60年代	14.1	6.6	5.9	0.7
	70年代	6.7	4.5	3.7	0.8
	80年代	4.7	1.6	0.9	0.7
	90年代	1.6	1.1	0	1.1
	2000年代	1.2	-0.1	-0.5	0.4
サービス業	1970年代	1.2	4.4	3.8	0.6
	80年代	1.2	1.2	1	0.2
	90年代	1.9	1.3	0.2	1.1
	2000年代	0.5	-0.6	-0.9	0.3

第3 - (3) - 5図 今回の景気回復過程（2002年から2007年）における賃金変化率（年率換算）
（単位：%）

項目		常用労働者の賃金 変化率（年率）	労働者構成要因	一般労働者の 賃金変化要因	パートタイム労働 者の賃金変化要因
規模事業所 5人以上	調査産業計	-0.3	-0.8	0.5	0.0
	製造業	1.0	0.0	0.9	0.1
	卸売・小売業	-0.2	-1.3	1.1	0.0
	サービス業	-1.2	-0.5	-0.6	0.0
規模事業所 5～29人	調査産業計	-0.9	-1.1	0.2	0.0
	製造業	0.8	0.1	0.6	0.1
	卸売・小売業	-1.0	-1.4	0.4	0.0
	サービス業	-2.1	-1.2	-0.9	-0.1
規模事業所 30人以上	調査産業計	0.2	-0.5	0.6	0.1
	製造業	1.2	0.0	1.1	0.1
	卸売・小売業	0.8	-1.2	1.8	0.1
	サービス業	-0.7	-0.1	-0.7	0.1

第3 - (3) - 6図 今回の景気回復過程（2002から07年）における雇用の増加率（年率換算）
（単位：%）

項目		常用労働者	一般労働者	パートタイム労働者
規模事業所 5人以上	調査産業計	0.7	-0.3	1.0
	製造業	-0.1	-0.1	0.0
	卸売・小売業	0.0	-1.2	1.2
	サービス業	1.9	0.8	1.1
規模事業所 5～29人	調査産業計	1.2	-0.3	1.5
	製造業	1.0	0.9	0.1
	卸売・小売業	0.6	-1.0	1.5
	サービス業	1.7	0.0	1.8
規模事業所 30人以上	調査産業計	0.3	-0.2	0.6
	製造業	-0.5	-0.4	0.0
	卸売・小売業	-0.7	-1.4	0.8
	サービス業	2.0	1.3	0.7

第3 - (3) - 7図 経済成長の雇用・所得への波及効果

項目	イギリス	フランス	アメリカ	ドイツ	日本
①1%の経済成長率をもたらす雇用・所得への波及効果 (%)					
雇用の増加率	0.332	0.551	0.488	0.37	0.234
所得の増加率	0.78	0.436	0.422	0.401	0.378
②1%の経済成長率をもたらす労働分配率の変動の大きさ (%ポイント)					
労働分配率	0.062	-0.004	-0.047	-0.109	-0.201

第3 - (3) - 8図 労働分配率の推移 (主要産業)

(単位 %)

年度	産業計	製造業	卸売・小売業	サービス業
1960	55.7	53.9	51.9	63.0
61	54.5	51.4	54.8	63.3
62	58.7	57.4	57.9	62.0
63	58.7	56.2	59.8	67.9
64	60.3	58.2	61.1	67.5
65	62.3	61.4	61.7	69.7
66	61.2	59.2	62.0	70.7
67	60.0	57.0	60.8	70.0
68	61.1	58.8	62.0	69.3
69	60.2	57.9	60.9	66.8
70	61.9	60.8	61.9	65.1
71	65.1	65.8	64.9	67.3
72	64.8	65.3	64.5	68.5
73	60.5	59.9	58.1	71.4
74	64.9	65.5	61.8	75.6
75	72.7	75.6	69.9	78.2
76	70.8	72.0	70.4	76.4
77	72.4	73.5	72.3	77.1
78	72.4	72.7	73.0	76.3
79	69.2	67.4	69.6	76.4
80	68.4	68.2	69.0	75.8
81	70.4	69.8	72.5	76.2
82	72.3	72.3	74.0	76.6
83	72.3	72.1	73.7	77.8
84	71.6	70.8	73.6	76.1
85	72.1	72.4	73.8	76.6
86	72.8	75.3	73.2	75.7
87	70.1	71.9	72.0	73.4
88	68.0	69.0	70.3	72.2
89	67.6	68.1	70.4	71.3
90	67.3	68.6	69.2	70.3
91	68.6	70.7	69.0	72.7
92	71.0	74.6	72.3	72.9
93	73.8	77.7	75.0	73.2
94	73.7	75.9	74.4	76.0
95	72.9	74.7	72.8	75.4
96	72.9	72.8	75.5	74.4
97	73.7	74.2	76.3	74.5
98	75.2	77.0	79.1	78.0
99	75.5	76.6	77.7	78.3
00	73.2	73.7	75.9	74.2
01	75.1	77.7	77.1	76.1
02	73.7	75.7	73.7	79.0
03	71.6	73.0	72.9	76.0
04	69.8	69.3	70.8	75.6
05	70.0	68.7	71.6	75.5
06	69.3	66.8	72.3	75.9

第3 - (3) - 9図 百貨店・総合スーパーの営業時間

(単位 %))

営業時間	1985年	1988年	1991年	1994年	1997年	1999年	2002年	2004年
10時間未満	95.5	93.7	85.2	42.5	22.8	17.9	12.3	8.6
10時間以上12時間未満	3.9	5.7	14.0	56.5	76.2	80.7	68.5	45.0
12時間以上14時間未満	0.3	0.6	0.7	0.9	0.8	1.3	14.3	35.7
14時間以上24時間未満	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	3.7	9.9
終日営業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.9

第3 - (3) - 10図 経営資源の投入と一人当たり販売額

①小売業の一人当たり販売額とパート・アルバイト比率(営業時間別)

営業時間	一人当たり年間商品販売額(百万円)	パート・アルバイト比率(%)
8時間未満	6.9	33.8
8時間以上10時間未満	19.3	28.6
10時間以上12時間未満	19.3	46.7
12時間以上14時間未満	17.6	57.3
14時間以上24時間未満	16.7	68.5
終日営業	13.6	83.8

②小売業の一人当たり売り場面積と一人当たり販売額(売場面積規模別)

売場面積規模	従業員一人当たり売り場面積(m ²)	一人当たり年間商品販売額(百万円)
10m ² 未満	2.5	6.5
10m ² 以上20m ² 未満	5.6	7.1
20m ² 以上30m ² 未満	8.7	7.9
30m ² 以上50m ² 未満	11.8	9.6
50m ² 以上100m ² 未満	15.3	12.3
100m ² 以上250m ² 未満	17.8	14.4
250m ² 以上500m ² 未満	32.8	19.7
500m ² 以上1000m ² 未満	34.9	20.9
1000m ² 以上1500m ² 未満	33.3	21.6
1500m ² 以上3000m ² 未満	37.5	22.8
3000m ² 以上6000m ² 未満	56.7	28.1
6000m ² 以上	48.3	33.3

第3 - (3) - 11図 百貨店、総合スーパーの一人当たり販売額に対する営業時間延長の影響

(単位 %)

項目	1985→88年	88→91年	91→94年	94→97年	97→2002年	02→04年
一人当たり商品販売額の増加率(年率換算)	3.5	4.7	-3.0	0.3	-5.1	-1.1
労働者個々の生産性変化要因	3.6	5.3	-0.1	2.8	-2.5	7.0
営業時間延長に伴う生産性低下要因	-0.1	-0.6	-2.9	-2.5	-2.5	-8.1

第3 - (3) - 12図 労働者を不足とする事業所の割合（主要産業別）
（単位：%）

調査年・月	製造業		卸売・小売業、飲食店		サービス業	
	正規の従業員	パートタイム	正規の従業員	パートタイム	正規の従業員	パートタイム
1985年 2月調査	19	16	20	17	21	16
5月調査	16	12	14	13	18	17
8月調査	14	12	12	13	20	13
11月調査	14	10	17	14	21	17
86年 2月調査	13	10	20	18	28	13
5月調査	8	7	10	13	18	14
8月調査	8	7	9	11	18	14
11月調査	8	7	13	15	19	10
87年 2月調査	10	8	19	12	23	12
5月調査	8	7	9	10	18	12
8月調査	10	10	12	12	21	17
11月調査	16	16	16	18	19	17
88年 2月調査	30	24	31	29	43	29
5月調査	25	23	23	30	37	33
8月調査	35	31	28	32	46	36
11月調査	39	35	33	34	51	40
89年 2月調査	44	34	45	36	58	39
5月調査	41	34	34	43	55	45
8月調査	47	38	43	40	59	52
11月調査	52	40	48	51	64	52
90年 2月調査	57	39	54	47	67	49
5月調査	54	38	43	41	66	52
8月調査	60	46	49	45	67	60
11月調査	60	47	49	49	69	52
91年 2月調査	65	45	55	46	66	48
5月調査	57	38	46	49	62	50
8月調査	61	37	46	45	60	44
11月調査	53	32	45	45	58	43
92年 2月調査	49	26	46	40	55	43
5月調査	35	18	30	35	47	37
8月調査	33	15	25	25	38	32
11月調査	25	13	20	20	36	25
93年 2月調査	22	9	20	19	32	19
5月調査	16	8	14	14	25	17
8月調査	15	8	10	15	19	16
11月調査	11	7	10	17	17	12
94年 2月調査	10	4	12	15	17	15
5月調査	10	7	7	13	13	13
8月調査	10	9	6	12	13	11
11月調査	12	9	8	13	14	12
95年 2月調査	14	10	10	16	17	10
5月調査	10	9	6	14	12	15
8月調査	10	7	6	11	14	13
11月調査	10	7	9	17	18	15
96年 2月調査	13	8	9	19	21	15
5月調査	11	8	9	17	16	20
8月調査	11	9	10	13	23	17
11月調査	15	11	12	21	25	18
97年 2月調査	20	13	18	25	31	21
5月調査	19	15	16	28	26	18
8月調査	21	15	14	21	23	17
11月調査	19	14	16	21	26	18
98年 2月調査	16	11	18	21	24	15
5月調査	7	7	8	16	13	18
8月調査	7	6	10	17	16	15
11月調査	5	7	9	16	15	15
99年 2月調査	7	8	13	15	18	16
5月調査	6	8	10	13	13	14
8月調査	9	9	11	14	16	13
11月調査	9	10	6	14	12	15
2000年 2月調査	10	8	10	17	19	17
5月調査	11	11	10	19	16	19
8月調査	13	14	11	18	19	17
11月調査	15	15	12	25	20	21
01年 2月調査	15	13	12	26	21	20
5月調査	10	11	17	26	20	25
8月調査	9	9	15	24	18	23
11月調査	7	7	13	24	19	19
02年 2月調査	9	9	11	25	19	22
5月調査	9	10	12	24	15	20
8月調査	10	11	12	19	16	19
11月調査	13	12	13	23	17	19
03年 2月調査	12	10	14	25	18	18
5月調査	12	10	15	26	14	19
8月調査	11	7	11	21	17	17
11月調査	16	12	15	26	19	21
04年 2月調査	19	13	15	25	20	21
5月調査	19	14	13	27	18	27
8月調査	19	14	17	22	19	26
11月調査	21	13	18	22	24	25
05年 2月調査	21	14	19	28	26	29
5月調査	22	15	18	37	24	26
8月調査	24	16	17	29	25	29
11月調査	24	16	21	32	27	30
06年 2月調査	26	17	23	37	30	29
5月調査	25	20	23	35	29	33
8月調査	26	16	21	35	29	30
11月調査	27	16	22	36	28	35
07年 2月調査	35	19	28	46	35	35
5月調査	29	17	24	49	35	34
8月調査	31	19	25	43	39	35
11月調査	28	18	22	43	33	31

第3 - (3) - 13図 景気拡張期における労働者の不足状況（雇用形態別）
(単位 %)

項目		1997年	2000年	2007年
正規の従業員	調査産業計	21	15	34
	製造業	20	12	31
	1000人以上	15	13	36
	300~999人	19	12	32
	100~299人	25	14	28
	30~99人	25	12	26
	卸売・小売業, 飲食店	16	11	25
	卸売業	16	9	26
	小売業	16	13	24
	飲食店	21	15	39
	サービス業	27	19	36
	対事業所サービス	24	18	36
対個人サービス	27	19	36	
パートタイム	調査産業計	16	15	29
	製造業	14	12	18
	1000人以上	10	9	18
	300~999人	14	14	19
	100~299人	20	14	18
	30~99人	19	15	18
	卸売・小売業, 飲食店	24	20	45
	卸売業	10	9	19
	小売業	33	24	58
	飲食店	36	36	50
	サービス業	19	19	34
	対事業所サービス	23	23	32
対個人サービス	16	15	39	

第3 - (3) - 14図 景気拡張期における新規学卒者の採用困難度
(単位 ポイント)

年	産業計	製造業	卸売・小売業, 飲食店	サービス業
1997	1.1	1.2	1.1	0.4
2000	0.3	0.3	0.2	0.3
2007	1.4	2.2	1.3	0.9

第3 - (3) - 15図 新規学卒者の製造業就職割合の推移
(単位 %ポイント、%)

項目	1970年	1980年	1990年	2000年	2007年
高学歴化要因	-	-0.7	-1.1	-2.3	-2.6
各学歴における割合低下要因	-	-8.6	-2.9	-9.8	-7.9
新規学卒者のうち製造業に就職した者の割合	36.4	27.2	32.5	24.2	25.9

第3 - (3) - 16図 景気拡張期における労働者の不足状況（職業別）

(単位 %)

産業計	専門・技術	技能工	販売	サービス	単純工	運輸・通信	事務	管理
1997年	23.8	23.8	17.0	12.3	20.8	12.3	5.8	4.5
2000年	23.0	19.0	18.0	13.0	16.3	11.3	6.8	4.8
2007年	41.5	35.8	33.0	32.5	32.3	29.5	13.8	11.3
製造業	専門・技術	技能工	単純工					
1997年	22.8	24.8	22.0					
2000年	23.5	21.5	18.3					
2007年	41.5	37.8	31.3					
卸売・小売業, 飲食店	販売	サービス	専門・技術					
1997年	27.0	17.5	17.8					
2000年	23.5	17.5	19.5					
2007年	47.3	39.5	30.3					
サービス業	サービス	専門・技術	単純工					
1997年	29.0	31.0	21.0					
2000年	25.0	28.8	14.3					
2007年	47.3	41.8	41.3					

本文図表基礎資料

第3 - (3) - 17図 不足感のある職業の入職・退出状況

(単位 %)

項目		25歳未満	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55歳以上
① 男 性	専門的・技術的職3業従事者					
	1990→1995年	7.5	7.6	-0.2	-0.7	-5.1
	1995→2000年	5.3	7.1	-0.7	-1.6	-6.7
	2000→2005年	4.2	5.1	-3.5	-4.0	-8.5
	生産工程・労務作業					
	1990→1995年	11.2	0.3	-0.6	-1.3	-7.8
	1995→2000年	7.9	-0.2	-0.9	-1.2	-10.1
	2000→2005年	6.5	0.4	-0.7	-0.8	-9.8
	販売従事者					
	1990→1995年	8.6	5.9	-1.3	-1.9	-5.3
	1995→2000年	7.6	4.2	-1.3	-1.4	-7.5
	2000→2005年	5.8	1.4	-2.3	-2.8	-10.1
サービス職業従事者						
1990→1995年	20.2	-3.8	-1.0	-1.1	-3.2	
1995→2000年	18.1	-5.2	-0.8	-0.6	-4.1	
2000→2005年	17.1	-5.0	-1.2	-0.7	-4.8	
② 女 性	専門的・技術的職業従事者					
	1990→1995年	19.6	-3.6	2.6	0.6	-3.6
	1995→2000年	14.7	-1.5	1.9	-0.5	-5.1
	2000→2005年	11.8	-0.1	1.6	0.0	-5.3
	生産工程・労務作業					
	1990→1995年	5.5	0.1	2.7	-2.4	-10.6
	1995→2000年	5.0	0.7	3.4	-0.4	-13.2
	2000→2005年	4.4	0.8	2.3	-1.4	-14.4
	販売従事者					
	1990→1995年	13.3	-1.2	3.4	0.7	-7.5
	1995→2000年	12.2	-3.4	1.3	-1.6	-11.5
	2000→2005年	11.2	-4.0	1.3	0.1	-10.7
サービス職業従事者						
1990→1995年	13.8	-0.9	5.2	3.4	-6.9	
1995→2000年	13.4	-1.2	5.1	3.8	-8.7	
2000→2005年	12.7	-2.2	5.5	4.3	-7.0	

第3 - (3) - 18図 主要職業の長期推移（就業者構成）

（単位 %）

年	専門的・技術的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	農林漁業作業者	生産工程・労務作業者
1950	4.3	8.0	8.4	3.3	48.0	23.2
55	4.8	8.2	10.6	5.0	40.6	24.8
60	5.0	10.2	10.8	5.2	32.5	29.5
65	5.5	13.1	11.7	5.8	24.5	30.9
70	6.6	14.0	12.0	6.1	19.2	32.4
75	7.6	16.7	13.3	6.5	13.8	31.8
80	8.7	16.4	14.6	6.9	10.8	32.1
85	10.6	17.7	14.5	7.1	9.2	31.3
90	11.6	18.7	14.7	7.2	7.0	31.1
95	12.5	18.9	15.2	7.8	5.9	29.8
2000	13.5	19.2	15.1	8.8	5.0	29.3
05	13.8	19.3	14.5	10.0	4.8	28.3
10	14.0	19.5	14.0	11.1	4.5	27.4
15	14.1	19.7	13.6	12.3	4.2	26.5
20	14.2	19.6	13.3	13.7	3.9	25.8
25	14.3	19.3	13.1	15.3	3.6	25.4
30	14.3	18.8	12.9	17.0	3.4	25.1

第3 - (3) - 19図 高齢化に伴い今後の急減が予測される職業（職業小分類）

（単位 %）

職業	2000→05年 (実績見込み)	2005→15年 (見通し)
化学工	-0.02	-0.96
非鉄金属製錬作業	-0.03	-0.83
海草・貝採取作業	-0.03	-0.93
無線通信技術従事者	-0.06	-1.00
電気機械器具修理作業	-0.06	-0.68
電気工事作業	-0.07	-0.79
甲板員、船舶技士	-0.18	-1.48
パン・菓子製造作業	-0.18	-0.53
一般機械器具修理作業	-0.19	-0.87
酒類製造作業	-0.21	-0.87
計量計測機器組立・修理作業	-0.25	-1.03
塗装作業、画工、看板制作作業	-0.29	-0.82
印刷作業	-0.31	-0.67
鉄道線路工事作業	-0.32	-1.42
文字組版作業	-0.39	-1.09
音楽家（個人に教授するもの）	-0.43	-1.00
ゴム製品成形作業	-0.44	-1.16
船内・沿岸荷役作業	-0.57	-1.32
鉄道車両組立・修理作業	-0.64	-1.81
セメント製造作業	-0.65	-1.68
金属熱処理作業	-0.70	-1.49
クリーニング職、洗張職	-0.82	-1.66
船舶ぎ装作業	-1.10	-2.26
航空機操縦士、航空機関士	-1.37	-3.11
船舶機関長・機関士（漁労船を除く）	-1.88	-3.99

第3 - (3) - 20図 職業の経験年数と勤続年数（職業中分類）
（単位 年）

職業	勤続年数	職業経験年数
定置機関・機械及び建設機械運転作業	13.2	14.1
建設作業	11.0	13.7
電気作業	14.2	13.6
衣服・繊維製品製造作業	12.0	13.2
技術者（情報処理技術者を除く）	12.9	13.1
化学製品製造作業	16.4	12.9
製材・家具等製造作業	12.8	12.8
窯業・土石製品製造作業	14.6	12.6
金属加工作業	13.2	12.3
印刷・製本作業	13.6	12.1
紙製品等製造作業	13.1	11.9
自動車運転者	10.2	11.7
一般機械器具組立・修理作業	13.1	11.4
鉄道運転従事者	17.7	11.2
保健医療従事者	7.6	11.0
電気機械器具組立・修理作業	11.5	10.9
教員	12.1	10.6
金属材料製造作業	13.1	10.6
調理士・見習	7.8	10.5
輸送機械組立・修理作業	10.6	10.2
化学研究者	10.3	10.2
車掌・旅客係	17.8	10.0
合成樹脂製品等製造作業	10.3	9.9
生活衛生サービス職業従事者	7.7	9.1
情報処理技術者	7.9	9.1
事務用機器操作員	7.8	8.7
販売従事者	8.3	8.7
食料品製造作業	8.1	8.4
警備員・守衛	6.6	7.2
接客・給仕職業従事者	5.7	7.0
社会福祉専門職業従事者	6.0	6.9
家庭生活支援サービス職業従事者	4.5	6.4